

# 新疆ウイグル自治区の牧畜業の現状と課題

甫 爾 加 甫

(新疆八一農学院農業経済学部)

新疆ウイグル自治区は中国の一番西側にあつて、ソ連、モンゴル人民共和国、パキスタンと言つた国々と隣接している。新疆地域の真中に天山山脈があつて、北側を北新疆、南側を南新疆と言ふ。北新疆の北側がアルタイ山脈、サル山脈にかこまれ、南新疆の南側が喀喇崑崙山脈、崑崙山脈、阿尔金山にかこまれている。新疆の北から南にかけて、准噶尔、塔里木、吐魯番と言ふ三大盆地がならんでいる。新疆の全面積は中国の六分の一を占める、天山山脈やアルタイ山脈やサル山脈の頂上が積雪と氷によつて、巨大な固体水ダムが形成されている。したがつて、新疆は美しい緑の牧場とオアシスを有している。

また独特の牧草資源、飼料資源と家畜資源の産地である。これが新疆の牧畜業の発展に対して良い自然条件を当えている。

何千年も前から、新疆に住んでいる各民族がこの自然条件によつて、家畜生産をいとなんで、生活を維持して来た。未だにモンゴル、カサフ、キルクス、タジクと言つた民族が主に家畜生産をいとなんでいる。これ以外の民族が農業をいとなむけれども、家庭内に家畜を飼養する習慣がある。かくて、牧畜業自体は新疆国民経済の中に重要な地位を占めている。それに新疆は我國の五大牧畜地域の一つであり、家畜頭数は二番目に多いのである。これほど大きい牧



冬春草地の牧畜農家 (新疆ウイグル)

畜生産地には研究すべき事柄が数多くあるけれども、本報告において新疆牧畜業の現状と課題について述べておく。

### 1. 新疆の草地資源と分布状態

新疆の全草地面積12億畝、全国の天然草地面積の22.6%である。この中に再利用草地面積は7億5千6百万畝で、全国のその22.8%である。

新疆の草地を季節に分けて見ると、夏に利用する草地は1億6千8百万畝、新疆草地面積22.2%である。夏秋に利用する草地は8千4百万畝、11.1%、春秋に利用する面積は2億5百万畝、27.1%である。冬春に利用する草地は5千5百万畝、全面積の7.33%、冬に利用できる草地は1億6千6百万畝で、全面積の22.2%である。それから一年中利用できる草地は7千7百万畝で、全面積の10.2%である。草地面積が

これほど多くあるけれども、草地の質と面積と家畜可飼養量によって、新疆草地をながめれば、表1のようである。

表1に示してある優等草地と言うのは、質の高い禾本科と豆科牧草である。莎草科、禾本科を良等草地と言う。質の低い禾本科と雑類草を主とする草地を中等草地と言う。

以上は新疆草地を質と季節と家畜可飼養量によって見たものである。しかし、これらの草地面積が各地区と各州にどのように分布されているかと言うと表2を参考されたい。

草地には主として二種類の草地がある。一つは山地草地で、もう一つは平原草地である。山地草地は主にアルタイ山脈の西南斜面、准噶尔盆地西北側の山地、天山山脈の山地、昆倫山脈の北側斜面とパミール山脈の東はしである。これ以外には、最近人工草地が建設されているが、規模はそんなに多くはない。人工草地には草を



羊の放牧（新疆ウイグル）

表1 新疆各類草場質量等級

單位：萬畝，萬頭

季節草場 等級	夏 場		春 秋 場		冬 場		夏 秋 場		冬 春 場		全 年 牧 場		小 計 ※	
	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量
優	3952.2	1518.5	425.0	120.1	890.2	204.5							52677.4	1518.5
良	11240.5	2915.3	3167.3	746.9	6344.6	1240.5	2122.8	280.4	307.3	34.1	0.2	0.1	23182.7	3195.8
中	1623.8	277.0	6181.3	957.4	7526.7	1114.5	2446.3	224.3	191.7	20.5	3592.9	532.0	21562.7	1033.3
低	7.4	0.6	9424.1	961.8	1701.8	112.9	2618.6	165.7	4965.4	289.9	2017.3	130.2	20734.6	296.5
劣			1302.0	106.2	163.9	11.1	1256.0	83.2	93.3	5.1	2092.9	109.1	4908.1	192.3
合 計	16823.9	4711.4	20499.7	2892.4	16627.2	2683.5	8443.7	763.6	5557.7	349.6	7703.3	771.4	75655.5	6236.4

※載畜量は夏，夏秋および全年牧場の合計

(資料：中国科学院新疆綜合考察隊)

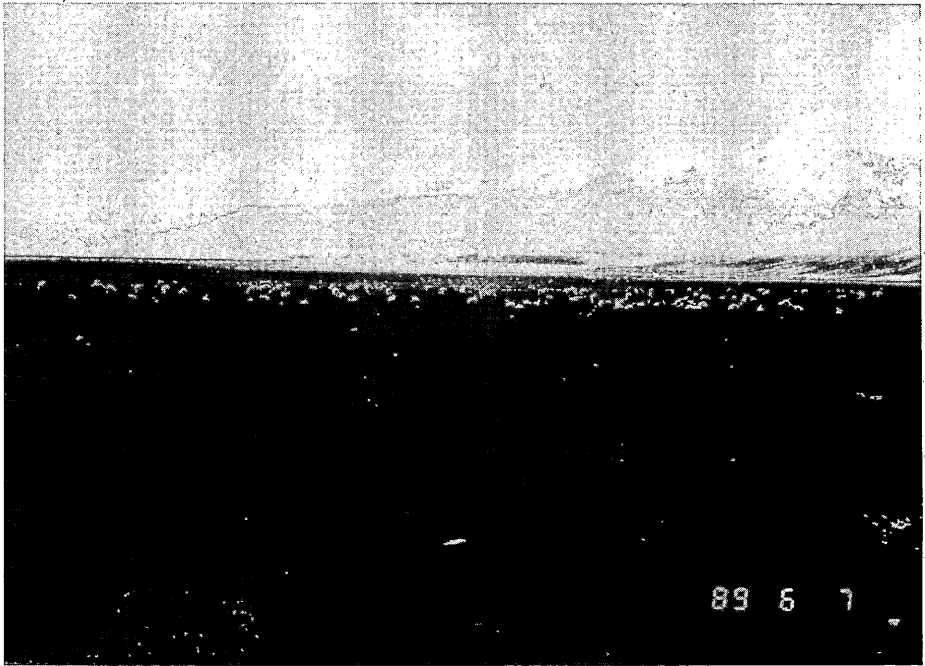
表2 新疆天然草場季節和地区分布表

単位：万亩，万頭

季節草場 地州 名称	夏 場		春 秋 場		冬 場		夏 秋 場		冬 春 場		全 年 牧 場		小 計 ※	
	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量	面 積	載 畜 量
阿 勒 泰 地 区	5102.6	1705.0	7145.5	1031.5	2947.8	409.5							15195.5	1705.0
塔 城 地 区	1817.0	478.4	3874.9	439.5	4102.1	757.3							9794.0	478.4
伊 犁 地 区	2762.8	1042.9	1169.9	346.1	1910.5	423.5							5843.2	1042.9
博 尔 塔 拉 蒙 古 自 治 州	743.5	186.7	828.7	101.6	861.6	166.2							2433.8	186.7
昌 吉 回 族 自 治 州	1066.8	299.7	3168.3	441.8	2758.7	407.5							6993.8	299.7
哈 密 地 区	466.2	132.1	1847.6	198.3	1670.6	230.6							3984.4	132.1
吐 魯 番 地 区	607.7	112.5	697.0	69.5	380.3	60.6							1685.0	112.5
巴 音 郭 楞 蒙 古 自 治 州	2408.0	477.5	817.4	124.1	839.8	118.4	3740.8	283.7	1987.5	94.0	3118.0	333.2	12911.5	1094.4
阿 克 蘇 地 区	1351.3	211.2	890.8	128.1	880.3	89.3					1976.3	163.0	5098.7	374.2
克 孜 勒 蘇 柯 尔 克 孜 自 治 州	498.0	65.4	59.6	11.9	275.5	20.6	1819.3	238.7	923.1	69.3	121.1	10.3	3696.6	314.4
喀 什 地 区							951.1	81.5	865.9	59.5	1565.8	157.0	3382.8	2381.5
和 田 地 区							1932.5	149.7	1781.2	126.8	922.1	107.9	4635.8	257.4
合 計	16823.9	4711.4	20499.7	2892.4	16627.2	2683.5	8443.7	753.6	5557.7	349.6	7703.3	771.4	75655.5	6236.4

(資料：中国科学院新疆綜合考察隊)

注：1. 載畜量は夏，夏秋及び全牧場の合計  
2. 載畜量は綿羊を基準にして計算した。



パインブルグの夏草地（新疆ウイグル）



南山牧場（新疆ウイグル）

表3 各地区と州及びとんでんへいの家畜頭数（1988年末）

単位：万頭数

地区(州)	合計	牛	良種及改良牛	馬	驃馬	騾	駱駝	豚	やぎ	羊	良種及び改良種羊
合計	3333.32	293.32	38.76	103.33	111.02	2.54	16.48	78.85	410.89	2278.22	1151.01
ウルムチ市	52.68	4.22	0.42	1.77	0.82	0.03	0.25	1.19	9.47	34.51	22.54
カラマイ市	5.10	0.30	0.04	0.09	0.01	—	0.04	0.07	0.40	3.52	0.20
トルファン地区	84.13	2.60	0.04	1.01	4.67	0.41	0.25	0.50	9.23	65.42	—
ハシ地区	100.87	5.32	0.06	3.43	3.03	0.21	1.78	3.10	26.86	57.08	21.87
昌吉州	237.26	12.77	0.76	7.55	5.06	0.33	1.85	15.35	26.39	167.20	102.54
イリ地区	429.02	50.53	13.50	31.31	3.48	0.02	0.50	7.63	13.75	308.30	217.39
タチン地区	288.16	19.52	4.99	12.10	1.02	0.16	2.81	6.56	35.05	205.95	167.18
アルタイ地区	231.90	33.02	5.14	13.68	0.06	0.01	4.05	1.61	30.98	143.35	109.88
ボルタラモンゴル自治州	86.60	6.14	0.77	2.63	0.41	0.01	0.35	2.82	4.86	68.61	54.30
バトンゴロンモンゴル自治州	231.55	17.61	0.65	7.47	5.15	0.06	1.12	4.15	37.53	157.81	38.64
アクスー地区	348.61	34.53	2.73	8.69	13.73	0.50	0.81	1.75	95.90	189.97	97.11
クズロスシルクズ自治州	131.06	12.89	0.02	2.70	4.74	—	0.98	0.10	33.60	75.95	21.75
カシカル地区	467.67	62.63	4.27	4.86	39.74	0.14	0.48	0.71	49.91	304.20	25.90
ホタン地区	302.92	17.71	1.69	1.81	24.62	0.46	0.64	1.06	18.83	236.04	50.85
とんでんへい	335.79	13.44	3.68	4.09	4.75	0.20	0.57	30.62	18.13	260.31	220.86

(1989年新疆統計年鑑より作成。県毎の家畜頭数は省略)

刈る草地と草を刈ってから冬に家畜を放牧する  
と言う草がある。

## 2. 新疆の家畜資源とその分布

新疆は独特の家畜生産条件をそなえている。  
新疆の遊牧民は長期的な家畜生産の実践の中で、  
家畜飼養経験を色々有して、それに数多くの  
家畜品種をそだてている。例えば、カサフ馬、  
イリ馬、キルクス馬、モンゴル馬とカサフ牛、  
モンゴル牛、カサフ羊、新疆細毛羊がそれであ  
る。かくて、新疆は歴史上我国の家畜放牧の非  
常に発達したところになった。新疆の遊牧民の  
主にかかっている家畜は羊、牛、馬、山羊、駱  
駝である。これらの家畜は、新疆各地の自然条  
件または社会経済条件の制限によって、放牧さ  
れる所を異にしなければならない。表3を参照  
されたい。表によれば、北新疆の家畜は南新疆  
のそれよりも多い。それに馬、猪または駱駝は

北新疆の特徴的家畜である。逆に驢馬は南新疆  
の特徴的家畜である。全新疆について言えば、  
羊、山羊と馬は新疆地域の特徴的家畜である。

新疆の家畜生産（放牧）を6地域に分けるこ  
とができる。第一の家畜放牧地域はアルタイ山  
脈の南斜面である。この地域は脂臀羊（大尾羊）、  
牛、馬と駱駝を生産する所である。この地域は  
新疆の北側にあつて、アルタイ、ハバフ、ブル  
ジン、ジムナイ、フハイ、ココトハイとチング  
ルと言つた七つの県を含む。1988年この地域の  
家畜頭数は231万9千頭であり、その内牛は33万  
2百、馬は13万6千8百、駱駝は4万5百、や  
ぎは30万9千8百、羊は143万3千5百である。  
この地域に家畜を生産する主な民族はカサフ民  
族であつて、遊牧に使う移動距離は別の地域に  
比べて一番長い地域である。

第二の家畜生産地域は准噶尔西側の山地であ  
る。この地域には肉と毛を兼用する細毛羊、兼



牛の放牧（新疆ウイグル）

用牛と馬を生産する。この地域は天山の北山元と准噶尔盆地の西側であり、タチン地区のウォシ、タチン、トリ、ユウシンと木ブグサル県またはキートン市と独山子市を含む。

第三の家畜生産地域は天山の北斜面である。この地域では肉と毛を兼用する細毛羊、牛、豚、馬とらくだである。これは天山の北斜面の西側、中部と東側である。ここにイリ地区、ボルタルモンゴル自治州、タチン地区のウスー県とサワン県または石河子市、昌吉回族自治州、ハミ地区のバクリン県、伊吾県とウルムチ市を含む。この地域の東西長さは一千二百キロ、南北の広さは二百キロである。

第四の家畜生産地域は天山の南斜面である。この地域に細毛羊、兼用牛、牛毛牛、驢馬、山羊を生産する。この地域はアクトー、ウチャー、アトシー、アホチー、ウシー、温宿、和静、ヤンジ、ホシュート、博湖、トルファン、鄯善、

トクシュン、ハミと言った県を含む。

第五の家畜生産地域はタリム河沿である。ここに羔皮羊、兼用牛、驢馬、山羊と駱駝を生産する。この地域の北部は天山の南斜面、東は羅布波、南部はタクラマカン砂漠である。ここは、バインゴロンモンゴル自治州のクルロ県、尉犁県、輪台県、アクスウ地区のクチャー県、シン木県、サヤ県、アクス県、アワティ県、コピン県とカシガル地区の9つの県であり、面積は22万1千6百平方キロである。

第六の家畜生産地域は昆倫山の北山元である。ここで半粗毛羊、牛、驢馬、山羊を生産する。この地域は新疆の一番南にあるので、タシコルガンを始め11県を含む。以上は新疆の全家畜の放牧され、移動される六つの大きな地域である。この六の地域には自然の草と水が豊富にあると見なされても良いである。



羊の搾乳（新疆ウィグル）



## 新疆家畜の飼養と繁殖

新疆家畜の飼養と繁殖は、依然として牧畜業の経営形態に直接関係する。依然として、草原牧畜業はあいかわらず新疆牧畜業の主な形態である。天然草地は新疆家畜の唯一の生活と繁殖する所である。新疆の家畜は天然草地を利用する時天然草地に対する自然条件（光照、気温、降雨、降雪量）によって季節的に利用する。したがって水と草の豊富さによって、一年中の放牧形態と季節的の移動式放牧形態をとっている。

季節的に移動して家畜経営するところはアルタイ地区、タチン地区、イリ地区、ボルタルモンゴル自治州、ハミ地区とトルパン地区である。例えば、アルタイ地区のココトハイ県の草原牧畜の移動期間は全新疆で一番長い所である。一年の四季における放牧移動日数は約97日間かかる。ある地域の移動期間は4日間かかる。ココトハイ県の家畜は冬草地を放牧されかつ利用してから、雪を追いながら春草地に移動される。

この時家畜は分娩時期であるから、一日の移動速度はそんなに早くない。二十日間ぐらいかかって春草地にやって来てすぐに家畜は分娩し始める。ここで家畜のとまる所を消毒する。これは小家畜と小家畜を生む家畜に伝染病が流行しないように防疫しているところである。この時期は遊牧民にとって一番忙しい時期となる。ここで家畜が生み終わってから、小家畜の訓練が行なわれる。春草地に止まる期間は春草地と夏草地の距離と春草地可飼養能力によって決まる。それから夏草地に移る。夏草地の水と草が豊富であるから、家畜はここでふとるチャンスを得る。冬と春にやせた家畜はここで体力を回復するし夏草地を家畜は多くても2ヶ月ぐらい利用して、秋草地に移る。大部分の家畜生産地域は秋と春の草地を同じ所にする。家畜は秋草地に雪がふるまで住んで、11月ごろ冬草地に移る。そして、来年の春まで冬草地に住むのである。新疆の草原牧畜経営方式このようである。



カサフ族の包（新疆ウイグル）

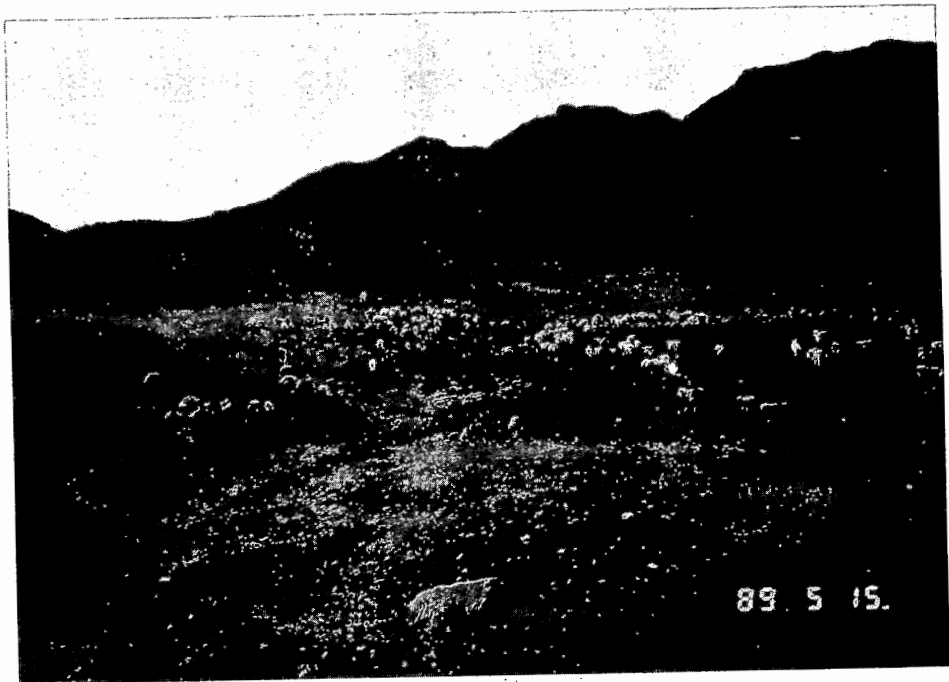
1983年の経済改革以前の家畜経営方式は次のようである。全新疆に86の県がある。その中に草原、牧畜を経営しない県が数少ない。県の下に“公社”がある、いわゆる“人民公社”である。公社の下に4つぐらいの“大隊”と言う生産単位があって、その下に“小隊”と言う生産単位がある。農業と牧畜業をする公社があれば、両方を兼用する公社もある。その時家畜の経営は専門的に行なわれた。羊、山羊、牛、馬と駱駝は皆それぞれあたえられた遊牧民によって放牧された。例えば、羊を放牧する遊牧民は1家族400~600頭数を一年中に放牧する。山羊を放牧する家族は300ぐらい、牛は150ぐらい、らくだは70~80ぐらいである。しかし、馬は違う。馬の移る距離は長いし、それに移動速度を早いから、15人ぐらいの単身の若者にまかせられた。

1983年の経済改革の後、以上の経営方式を止めて、“鉄畜”と言う経営対策をとった。“鉄畜”と言うのは全公社の各種家畜を一家族ごと

の人数に分ける。例えば一家族に10人があれば、その家族に羊60個、馬3匹、牛3頭、らくだ1峰ぐらいをくばる。これらの家畜は元の数が変化しない。言いかえればへらしてはいけない。増加した家畜を家族自身で処理する。それに少々の課税がある。これを“鉄畜”と言う。それと同時に草地の面積と家畜の定住点を遊牧民に分けて規定された。1983年からの事実から見れば、遊牧民は家畜と草地の経営権をにぎって、第一義的な植物生産を基礎とした第二義的家畜生産をうまく結合することができた。したがって、牧畜経営において、人、草、家、責任、権力と利益を統一することができ、農牧民の経済条件が絶え間なく改善されている。

#### 4. 課 題

新疆の天然草地に三つの分類がある。それは放牧草地、採草地と前者の両方を兼用する草地である。その中で、面積の多い分布の広いのは



冬春草地（新疆ウイグル）



羊の収容施設（新疆ウイグル）



冬春草地の給水用井戸（新疆ウイグル）

放牧草地である。

第一の課題は、季節における草地の家畜可飼養量がバランス取れない。例えば、新疆において寒い季節の草地は非常に不足である。草地面積と家畜可飼養量の分配から見ると、夏草地と夏秋草地の面積は2億5千万畝であり、全草地面積の33%を占める。家畜可飼養量は5千4百万羊単位、草地の利用時間は3ヶ月たらずである。冬草地と冬春草地の面積は2億2千万畝である。全草地のその29%を占め、家畜可飼養量は3千万しかないので、草地における利用期間は4ヶ月から6ヶ月までである（1983年の新疆家畜の頭数は3333万をこえている）。春秋草地は約2億畝である。家畜可飼養量は2千8百万羊単位で、利用時間は4ヶ月以上である。

第二の課題は草地における水源の分布がバランス取れない。この原因から草地が利用しにくい完全に利用できない。例えば、アルタイ地区のエルツス河とウルング河の間に広い草原がある。ここは乾燥草地になっていて、雪がとけなければ放牧することができない。したがって冬が終ってから雪を追いながらこの草原をこえて春草地に移る。

第三の課題は、草地に生える草は年度において産草量は一定ではない。これは草地に必要とする水分は主に天然降水量によって決まられる。したがって年度間の降水量が変われば、草地における産草量もそれによって変わる。

第四の課題は、各地区と各州に分布されている草地は合理的ではない。ある地区の草地は広い、ある地区のはせまい。同じ地区の夏草地は広い、冬草地はせまい、あるいは夏草は不足すれば、冬草地はあまる。

第五の課題は草地破壊である。30年来全新疆の破壊された草地は5千万畝以上で、全可利

用草地面積の7%以上である。これらの草地は質の良い冬春草地と草を刈る草地である。この草地は主に農業によって使われてしまう。

第六の課題は草地を利用するだけで、合理的に利用するとか草地を改善させて建設すると言うことを重視されてない。これによって草地の自動的破壊がまねかれる。

第七の課題は家畜の改良である。これは経済改革の前とちがって、家畜は遊牧民に分配されてしまい、組織的に改良するとか科学的防疫することがうまく行かない。

第八の課題は家畜頭数の統計上の誤差である。新疆の家畜は1988年の年末3333万頭であると言われている。それは“鉄畜”の上に課税された家畜をたしただけのものか、それとも遊牧民の私的な家畜をもたしているか明白ではない。

新疆の草地資源が豊富で、面積も広い、草地の型が多い、分布も広い等、草原家畜放牧に良い条件を抱えているけれども、新疆の牧畜業には以上の様な問題点が存在している。このような問題点を解決するために、草地を合理的に利用するとか人工草地の建設をスピードアップさせ、寒い季節における草と飼養能力を良くする必要がある。したがって、完全に天然草地にたよって放牧する方式から、半放牧と半飼養を実現させることを目標にする必要がある。

第九の課題は冬における家畜の畜舎の建設である。これは非常に重要な課題である。新疆の大部分の冬草地において家畜を冬の寒さと風と雪から守る畜舎がない。これは春に生む家畜にとっても必要である。冬の寒さと風と雪にたえないで死亡する家畜の頭数は、バインゴロンモンゴル自治州のバインブルク大草原で何十万と言う記録を作っている。